

新たなステージへと進むポジティブ・アクション！

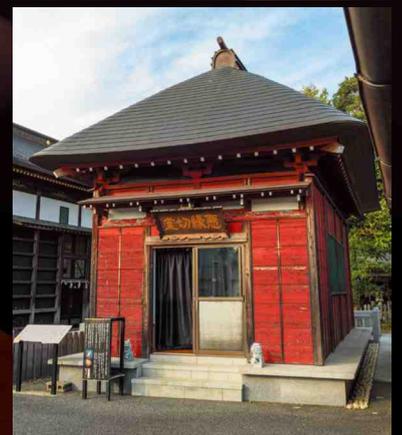
# 悪縁を切る！

「清々しさ」を尊ぶ神様の世界では、執着しないことが理想の心。ちょっとコワイ印象がある「悪縁切り」という言葉だが、実際に大杉神社のさまざまな悪縁切りの儀式を体験してみると自分と向き合い、過去を断ち、次のシーンへと進むきっかけを得る非常にポジティブなアクションであることが解る。悩んだ時は「悪縁切り」で気分をリセット&リフレッシュしよう！

人形と書いて「ヒトガタ」と読む場合は、それは念ずる人の形代となり得るもの。その人そのものであり、あるいはその人が抱える問題そのもの、ともなり得るのだ。ネットでもお願いできる悪縁切りの初穂料は8500円（御願文・人形・土器の3点+送料）。



切りたい願いを「御願文」にしたためることで、自分が何に悩んでいるかが解る。実際、悩み事に苛まれている渦中は、目の前の辛さが重く、悩みの本質は解らないものなのだ。



**悪縁切堂** ※悪縁切大祭のみ開堂。通常は悪縁切倉にて人形の焼納実施。

大杉神社にある数多の建造物の中でも、最も古いといわれる悪縁切堂や新たに設けた悪縁切倉。戸を立て切りあるいは帳を下ろし真っ暗にした建物の中に「籠る」という行為には、「生れなおす」という側面もある。言い換えれば、もう一度、母の胎内に帰って、生まれ変わるのである。意識の上の話だが、今までの自分をリセットして、新たな自分になることができるというわけだ。ヒトガタが燃え尽きる30分ほどの時間は、非日常空間が経験できる貴重な体験となり得る。

大杉神社といえは、「悪縁切り」でも有名である。

「悪縁切り」などという、なんだかおどろおどろしいものを想像してしまいがちだが、実際に大杉神社を訪れてみると、参詣者たちは笑ったりしながら、それぞれの「悪縁」を切っている。その光景は、意外に朗らかだ。たとえば境内の齋庭では、土器を割って悪縁を断ち切っている。もちろん神聖な儀式ではあるが、土器がスパーンと綺麗に割れると、やはり気持ちが良いのだろう、「やったあー」などと声があがる。そんな朗らかな声があげられれば、もう悪縁など切れている——そう、思えてくる。

悪縁といっても、さまざまである。骨からみ、血で血を洗つ悪縁もあれば、「ちょっと嫌だなあ」程度の軽いものまで。しかし、小さなネガティブも、発散できずに溜め込むと、やがては得体の知れないとんでもないバケモノに変化する、ということもある。

イヤなものは、その都度、土器を割って片つけていけばいい。それでいいんだ、と思わせてくれるのが、大杉神社の悪縁切りなのだ。また、悪縁切大祭時のみに開かれる境内で最も古い建物である「悪縁切堂」や通常使用される「悪縁切倉」での人形焼納も人気だ。



土器割りにチャレンジする人はさまざま。深刻な顔をしたスーツ姿のサラリーマンもいれば、なんだか妙に楽しそうな女子たちも。大きな音を立てて、土器が気持ちよく割れると、みんな、いい顔になって帰っていく。

悪縁切

土器を割る時は、「我思う君の心は離れつる我も思わじ君も思わじ」と三度唱えるのがお作法。恨みを込めて叩き割る……というより、あまり念を込め過ぎずに、ふわっと投げた方が、気持ち良く、綺麗に割れるという。

## 悪縁切りが“キットカット”に!?

「キットカットと悪縁切り?」とは、一見、奇妙な取り合わせのようだけれど、大杉神社の良縁の呼び込むことを意味するポジティブ悪縁切りなら、両者は絶好の相性といえそうだ。サクッと割れて、美味しく、楽しい気分にいざなわれるチョコレート菓子は、どこか土器割りの清々しさにも通じる。1件1万円以上の悪縁切の祈禱をされた方に進呈(限定1000個)。



屹立する桃型石に当てないように土器を投げ割る。齋庭に積もる数多の破片からは、多くの人が悩みをスッキリと祓った快い雰囲気伝わってくる。むしろ爽やかな印象が不思議だ。

### 悪縁切りのお守りも登場!



悪縁切御は、御守袋に割符を納める形式。片方の板に断ちたい悪縁の内容を記して神社に納め、もう片方の御守板は袋の中に納めて身につけ、または身近な清浄の場に置くなどで、「切る」ことをイメージする。初穂料2000円

一連の30分ほどの時間を経過後、多くの人はすっきりとした表情で、お堂から出て来るといふ。執着から離れたり、囚われているものから逃れられたりしたのだらう。たとえていえば風空あがりのような、そんなサッパリとした気分らしい。

切る悪縁は、骨肉の争いや、色恋のドロドロした情念ばかりとは限らない。お酒やタバコとの縁を切りたい、夜中に甘いものを食べる悪縁、酔ってラーメンをつい食べてしまっ悪縁を切りたい、貧乏神と縁を切りたい……悪縁切りは、そうした日常にあふれる小さなガタティブを整理してしまっ、良いきっかけなのである。

人体を象った「ヒトガタ」板に切りたい悪縁を記し、堂に籠って、自ら火を点ける。暗闇の中、炎の揺らめき見つめ、幻影の中から進むべき道を見出す……これを独りでおこなう、というセオリーが大切なのだらう。

人は、意外と自分の悩みの正しい大きさを知らない。嫌なことがあると「嫌だ」という感情にばかりとらわれて、悩みの本質について思いをめぐらせる余裕がなくなってしまうのだ。

切りたい悪縁を「書く」という行為は、自分の悩みをしつかりと向き合う作業でもある。

そして、戸を閉め切った真つ暗な空間で、独り炎の揺らめきを見ていると、メラメラと動く火がさまざまなものに見える。その幻影の中に、自ずと進むべき姿が見出されるという。この行為はすなわち、心を整理する儀式なのだらう。そう、自分かどうするべきなのか、大抵の場合、もつ自分の中では決まっているのだ。しかし、それを実際に行動に移すには、なにかのきっかけが必要だ。それが「悪縁切り」であるなら、悪縁切りはとてもポジティブな作業、ということになる。

そして、戸を閉め切った真つ暗な空間で、独り炎の揺らめきを見ていると、メラメラと動く火がさまざまなものに見える。その幻影の中に、自ずと進むべき姿が見出されるという。この行為はすなわち、心を整理する儀式なのだらう。そう、自分かどうするべきなのか、大抵の場合、もつ自分の中では決まっているのだ。しかし、それを実際に行動に移すには、なにかのきっかけが必要だ。それが「悪縁切り」であるなら、悪縁切りはとてもポジティブな作業、ということになる。

# 夢むすび大明神に願いを届けて夢をかなえる!! 正五九参りのススメ

江戸時代、最強・万能の祈祷法として人気を集めた「正五九参り」。正月、五月、九月の三回祈祷をおこなうことで、運氣が絶えずに、良い方へと展開していく。大杉神社にはさらに、唯一無二の秘伝の祈祷法も存在する。

日本で唯一の「夢むすび大明神」と称えられる大杉神社。その人の夢をかなえる「夢むすびの御守」「夢むすび絵馬」は、わざわざ遠くからいただきに来る人もあるほど人気。



「正五九参り」という参拝法がある。神様のパワーが生まれる正月、力をもっとも盛る五月、結びに入る九月……と、旧暦の各月に、年三回御祈禱を受けることで、夢が次第に膨らみ、御利益を得るといふ最強の祈祷法。現在ではあまり知られていないが、江戸時代までは人気のある御利益参りであった。また、とくに強く願う者は、これを三年続けたいという。大杉神社では「夢叶正五九三年参り」と呼称し、今でもこの御祈禱を受け付けてくれる。

正五九参りは、三年以内に願いが叶った場合でも、満願となる三年目の最終月まで祈禱をつづけ、四年目に御礼参りのご祈禱を受ける。これをおこなうと、願いが叶う云々とは別に、「不思議な安堵感に包まれる」といふ。年三回、三年、そしてもう一年というサイクルが、神様との濃厚な御縁に繋がるのである。

ところで、正五九参りはほかの神社でもおこなわれたが大杉神社には天海大僧正が定めた特別な祈祷法が伝わっている。健康や病氣平癒の祈願には十、二月に参る「十二六」、金運・財運を高めるのは四、八、十二月に参る「四八王」、恋愛や縁結びには七、十一、三月に参る「七十三」の各参りである。

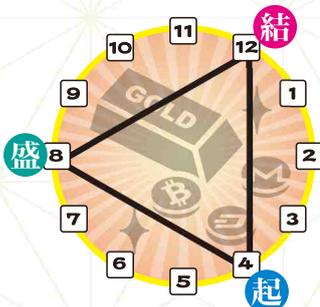
天海大僧正といえば、家康以後三代の将軍に仕えた黒衣の宰相。また上野寛永寺、日光山輪王寺住職とともに大杉神社の別当寺である安穩寺の住職も兼ねていた。「江戸時代最強の風水師」と呼ばれた天海大僧正のほか、に例を見ない秘法が、大杉神社に伝わる所以である。

## 願いに合わせてお参りの時期を知る!!

大杉神社の別当を勤めた天海大僧正が、庶民のための開運法として定めたとされ、江戸時代初期より大杉神社から全国へと拡がりを見せたものである。

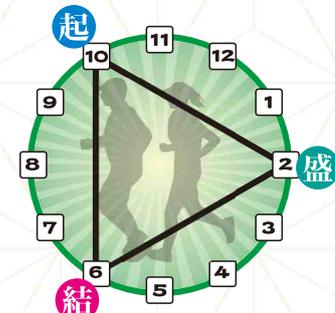
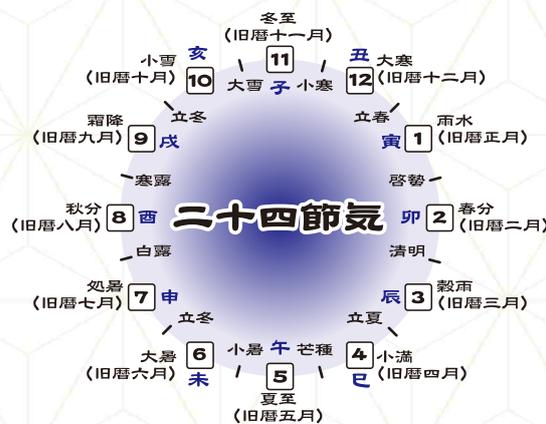
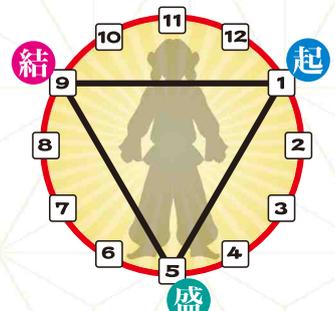
### 金運を高める「四八王参り」

四月に「起」、八月に「盛」、十二月に「結」のお参りをする「四八王参り」は金属性。正五九参りのヴァリエーションのひとつで、驚くほど金運・財運・くじ運・商売繁盛を高める御利益があるという。その名は十二という漢字がひとつに重ね合わせて「王」と読むことに由来する。



### 最強万能「正五九参り」

神様のパワーが生まれる正月に「起」、力をもっとも盛る五月に「盛」、結びの九月に「結」のお参りをする「正五九参り」は、基本にして神様の力を最大限にいたたく万能の祈祷といわれる。火属性のこの運氣の流れからは、まさにほとぼしるパワーが感じられる。



### 健康運を高める「十二六参り」

十月に「起」、二月に「盛」、六月に「結」のお参りをする「十二六参り」は木属性。健康運を高め、病氣平癒の御利益があるという。天海大僧正は江戸時代初期に100歳を超える長寿を保ち、将軍三代にアドバイスを行った人。だからこそ説得力がある。



### 恋愛運を高める「七十三参り」

七月に「起」、十一月に「盛」、三月に「結」のお参りをする「七十三参り」は水属性。恋愛運を高め、恋愛成就・復縁の御利益がある。その名は、十一という漢字をひとつに重ね合わせて「土」と読むことに由来。五行では土は水に相克し、打ち勝つ。あるいはその意か。